

平成 30 年所信

昨年は、震災からの本格的な復興を遂げる年としてスタートし、風評被害をうけました観光面では、全体の数値で見ますと、ほぼ震災前のレベルに復活したと思います。この震災からの復興を力強く後押ししています事業の一つが、震災でお世話になった方々に温泉をお届けする「別府温泉の恩返し」事業です。この事業は、平成29年度末までに47都道府県、約150箇所にて別府のあたたかさを届ける事業展開をさせていただいています。もう間もなく沖縄にお届けして締めくくろうと思っているところです。この事業では、47都道府県に温泉をお届けすると同時に、各地のマスコミの皆さんに取り上げていただき、非常に大きな、また強力なプロモーションにもなっているということもご紹介申し上げます。

そして、なんと言いましても昨年は「湯～園地」の年だったということに尽きると思います。約9,000万円の資金を、税金を使わずに行政主導のクラウドファンディングやご寄附で集める手法をとりました。この手法が、今後の全国の自治体の事業のあり方にも影響をあたえるのではないかと期待しております。

また、マスコミへの露出を広告換算額で計算していただいたところ、約100億円と言われております。直接的な経済効果といたしましては、2億円弱と言われてはいますが、別府市にとりましては計り知れないプロモーション効果があったのではないかと考えております。

この「湯～園地」の動画は、別府市民の皆様のために作った動画です。観光客の皆様にも、当然別府にお越しいただきたいという思いはありますが、あくまで市民の皆様のための動画ということをお願いしてまいりました。その言葉の意味を、今市民の皆様方に、よく理解をしていただいているのではないかと考えております。「湯～園地」計画の前と現在で、皆様一人一人の思いを比較していただきますと、別府への誇り・愛着は以前とは比較にならないものになっているのではないのでしょうか。ボランティアとして参加していただいた約1,200名の方々のほとんどが、今まで別府のイベント、もしくは、まつりで顔を見ることがなかった若い世代の方々に、特に学生の皆さんが多かったと思います。このことが、これからの別府市にとっての一番大きなレガシーであると考えております。

さらに、「湯～園地」計画は、これから地方が取り組むべき課題そのものであったとも思います。つまり地方創生とは何かという問いです。私は、地方創生はマインドセットを変えることと言ってきてまいりました。つまり、自分たちの負の固定観念を、自らの力、地域の力で変えていくことが大事だということです。別府にはどこにもない素晴らしいものがあります。それを活かしてどこにもできないことができます。これからも「湯～園地」のレガシーを活かした楽しい取り組み、展開をしてまいりたいと思います。市民の皆様も、市外これから別府を訪れようという方々も、わくわく・ドキドキ・感動していただけるように取

り組むことが私どもの望みであり、多くの皆さんもそれを期待していると思いますので、ますます加速して取り組んでまいります。

その他にも、世界の別府へ進化、発展する発表も昨年はされました。インターコンチネンタルホテルの別府進出です。市長就任と同時に、このインターコンチネンタルホテルや、いわゆる5つ星ホテルの誘致に取り組んでまいりました。別府が世界を舞台として競争していく上で、この5つ星ホテルは絶対に必要だという思いがあったからです。既存の宿泊施設の皆様はもとより、様々な関係機関の皆様と連携して、別府の付加価値を更に高め「稼げる観光」を推進して行きたいと思います。

また、2019年ラグビーワールドカップの組み合わせが昨年発表されました。大分は予選グループと決勝トーナメントを合わせて、5試合が開催されるという発表がございました。予選グループでは、ニュージーランド・オーストラリア・ウェールズ・フィジーの強豪国が、この大分県に来ることが決定しました。また、決勝トーナメントにおいては、イングランド・フランスという強豪国も来る可能性があり大きな期待を寄せております。公認キャンプ地として多くの強豪国に来ていただき、それに伴い多くの観光客の皆さんに来ていただくことを期待して、昨年、グラウンドを整備しました。1月28日からは、事実上、日本代表チームであります、サンウルブスの別府合宿が決定しております。この合宿の成功が、公認キャンプ地獲得の鍵と思っております。何卒、皆様方にも歓迎のおもてなしの心をもってご協力賜りますようお願い申し上げます。

その他にも、大分県主催で世界温泉地サミット、国民文化祭、全国障がい者芸術文化祭など、我が別府市にとって別府ブランドを国内外に発信するビッグイベントが数多く開催されます。私どもも十分な準備をして、しっかりとPRしてまいりたいと思います。

また、昨年「湯〜園地」で得た誇り、まちの一体感、そしてレガシーを大切に、市民生活に密着した諸課題の解決に取り組んでまいります。別府市の地方創生の総合戦略であります「べっぷ未来共創戦略」に掲げる施策の達成はもとより、これからの未来を見据えた重要案件に道筋をつけて行きたいと思います。その中でも、公共施設の再編計画は、市民生活にも直結する課題です。別府市は全国平均より多くの公共施設を保有しており、その多くの施設は旧耐震基準のままであり、用途別に統廃合、集約、複合化が避けられない状況となっています。公共施設の再編は新しいまちづくりの機会と捉え、市民の皆様とともに、時代にあった新たな公共空間のあり方を考えてまいります。

また、独自財源の確保も急務です。市税はここ10年間で約10億円減少しています。交付税につきましても減少傾向となっており、非常に厳しい財政状況の中、行政へのニーズは減るどころか増えて複雑化しているという現状です。そのような中ではございますが、別府の基幹産業である観光への投資なくして多くのリターンを望むことはできません。昨年末に市内外の各界、各層の皆様で構成する「別府のみらい検討会議」から、観光に投資する財

源として、入湯税の引き上げや宿泊税の検討が必要であるという内容の中間提言をいただきました。稼げる別府の実現こそが市民生活の安定につながってまいります。慎重なご意見もありますが、「別府のみらい検討会議」の最終報告の行方を見守りつつ検討してまいりたいと考えております。

これら重要課題の解決や施策の実現には、市民の皆様との協働・結束が必須です。これからも、全ての施策の最終目標は、市民の皆様の幸せのためということを共有させていただきながら、努力を重ねてまいります。旧に倍しますお力添え、ご指導を賜りますようによろしくお願い申し上げます。